

1. 職名及び人員 助教 1名
2. 所属 生物資源科学部 アグリビジネス学科 アグリビジネスマネジメントグループ
3. 専門分野 農業経営学分野
農業経営または経営・ビジネス等に関する研究経歴を有し、次世代型アグリビジネス創成のための経営発展に関する研究や教育、地域貢献に意欲を持って取り組める人材を求めます。
4. 担当授業科目 日本農業の社会経済論（分担）、コンピュータリテラシー（分担）、プロジェクト実習（分担）、プロジェクト卒業研究（分担）など
5. 応募資格 (1)博士の学位を有すること、または採用予定日までに取得見込みであること
(2)当該分野の教育と研究に熱意を持っていること、地域貢献にも意欲を持っていること
(3)国籍は問わないが、日本語が堪能であること
(4)採用が決定した場合、確実に着任できること
6. 採用予定日 平成30年4月1日
7. 勤務条件等 (1)身分 公立大学法人職員
(2)給与 職位・業績・職務内容に応じた年俸制
(3)勤務 裁量労働制
(4)任期 5年の任期制（再任回数に制限はありません。）
(5)定年 67歳
8. 応募書類 (1)履歴書（本学所定の様式1* による。）
(2)研究業績書（本学所定の様式2* による。）研究業績は、①学術論文（査読付き）、②国際会議発表論文（査読付き）、③その他に分類して記載してください。また、主要なもの3編に○をつけてください。
(3)主要論文3編（コピー可）
(4)これまでの研究、教育及び社会活動（地域貢献を含む。）の概要（1,000字程度）
(5)教育に対する抱負（1,000字程度）
(6)研究・地域貢献に対する抱負（1,000字程度）
(7)応募者について意見を求めることができる推薦者2名の氏名と連絡先
(8)科研費等外部資金獲得の実績がある場合は、過去5年間における獲得状況の一覧

注）*印：履歴書（様式1）及び研究業績書（様式2）については、ホームページ（<http://www.akita-pu.ac.jp/gaiyo/saiyo.htm>）をご参照ください。
9. 応募締め切り 平成29年10月27日（金）必着
10. 選考方法 (1)第一次選考 提出書類審査、学部選考委員会による面接
(2)第二次選考 プレゼンテーション、役員による面接
※面接の旅費等は自己負担となります。
11. 応募書類の提出先及び問い合わせ先 〒010-0444 秋田県南秋田郡大潟村南2-2
秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科 農業経営学分野教員選考委員長津田渉
TEL：0185-45-3922（ダイヤルイン） E-mail：sho5472@akita-pu.ac.jp
※封筒の表に「農業経営学分野教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で送付してください。応募書類は返却しません。
12. その他 本学は、女性の職業活動における活躍の推進に関する法律に基づき、女性活躍のための支援・環境整備に努めており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。
(女性活躍推進行動計画：<http://www.akita-pu.ac.jp/gaiyo/pdf/joseikatsuyaku.pdf>)
(子育て支援等行動計画：<http://www.akita-pu.ac.jp/kosodate/kosodate.pdf>)

生物資源科学部アグリビジネス学科 アグリビジネスマネジメントグループ
農業経営学分野 助教 求める人材像

生物資源科学部長 金田 吉弘

アグリビジネス学科では、農業・食料関連産業のイノベーションと次世代型アグリビジネス創成のための研究・教育を生産技術、生産環境、社会経済の領域で展開しています。その中でアグリビジネスマネジメントグループは、経営、流通、政策・経済、社会の分野から、地域農業や食料関連ビジネスの将来像を提案できる人材の育成、ならびに新たな地域農業ビジネス構築のための研究を進めています。地域農業ビジネスのあり方は農業生産の担い手である農業経営の発展に大きく規定され、消費ニーズを視野に入れた食関連ビジネスとの連携も不可欠です。こうした研究の一翼を担う農業経営学分野では、農業経営または経営・ビジネス等に関する研究経歴を有し、次世代型アグリビジネス創成のため、先進的な経営の発展に関する研究や教育、地域貢献に意欲を持って取り組める人材を求めます。

アグリビジネス学科 大講座制グループ構成

基本方針: アグリビジネス学科では、3研究グループ体制を堅持し、先進的な農業技術やアグリビジネスに関する研究を推進するとともに、それらを提案する能力のある人材を育成するための教育を行う。

アグリビジネス学講座

●アグリテクノロジー グループ

地域の自然的特性及び資源に基づく持続可能な作物・園芸・家畜生産の実用的先進的技術革新

農業生産学: イネ、ムギ、ダイズ等土地利用型作物、栽培技術の技術革新、イネの遺伝学的研究

園芸利用学: 競争力を持つ生産技術・実用技術開発、リンゴ矮化栽培の技術確立、福祉や教育の場面における園芸活動、鉢物花きの栽培と繁殖の効率的改善、ヤマノイモの新規生産技術の開発

畜産資源利用学: 資源循環型の肉用牛生産のための畜産技術研究、未利用資源の飼料化を含む畜産資源循環利用、動物機能制御技術の開発

●ルーラルエンジニアリング グループ

農地工学、農業水文学、農地防災保全学、生産システム工学による農業の高度化・体質強化を支える生産基盤整備に関する研究を行う

農地や水利システムの多面的機能を高める基盤づくり、水管理構造と環境への影響評価、農村水系における自然浄化機能の活用、農地防災保全学による水利施設の安全設計、ICT活用による農業技術革新、高度な情報処理による新たな圃場生産システム構築

●アグリビジネスマネジメント グループ

経営、流通、政策・経済、社会の分野から、地域農業ビジネス、地域資源活用ビジネスの将来像を提示

農業構造等に影響を与える農業政策の分析と評価、農業経営及び地域農業構造の実態分析、新たなビジネスの構造と展開、流通場面における持続的発展の条件等についての実証分析、地域主体の形成のあり方や支援方策の提案

フィールド教育研究センター

●フィールド農学 グループ

農業を核とした地域及び地域産業の活性化に関する理論や技術を修得し、実社会の要請に応える農業振興や生物関連産業等に携わる人材の養成

・農業機械・作業管理: 自立・無人での新しい機械化作業技術

・作物生産: 有機農法での雑草抑制(水田ロボット除草機)、大豆畑への帰化雑草の侵入実態の解明と適応戦略)

・果樹園芸: キイチゴ属植物の遺伝資源の収集、評価及び利用、キイチゴ(ラズベリー)の栽培体系の確立

・家畜資源利用: 生体のストレス緩和から食肉呈味品質の改善にまで及ぶ機能成分・特殊飼料の研究・開発、ニワトリにおけるビタミン様作用因子リボ酸の代謝調節機能とその実用的用途 □